

26:57 イエスをつかまえた人たちは、イエスを大祭司カヤパのところへ連れて行った。そこには、律法学者、長老たちが集まっていた。 26:58 しかし、ペテロも遠くからイエスのあとをつけながら、大祭司の中庭まで入って行き、成り行きを見ようと役人たちといっしょにすわった。 26:59 さて、祭司長たちと全議会は、イエスを死刑にするために、イエスを訴える偽証を求めていた。 26:60 偽証者がたくさん出て来たが、証拠はつかめなかった。しかし、最後にふたりの者が進み出て、 26:61 言った。「この人は、『わたしは神の神殿をこわして、それを三日のうちに建て直せる』と言いました。」 26:62 そこで、大祭司は立ち上がってイエスに言った。「何も答えないのですか。この人たちが、あなたに不利な証言をしています。これはどうなのですか。」 26:63 しかし、イエスは黙っておられた。それで、大祭司はイエスに言った。「私は、生ける神によって、あなたに命じます。あなたは神の子キリストなのか、どうか。その答えを言いなさい。」 26:64 イエスは彼に言われた。「あなたの言うとおりで。なお、あなたがたに言うておきますが、今からのち、人の子が、力ある方の右の座に着き、天の雲に乗って来るのを、あなたがたは見るようになります。」 26:65 すると、大祭司は、自分の衣を引き裂いて言った。「神への冒瀆だ。これでもまだ、証人が必要でしょうか。あなたがたは、今、神をけがすことばを聞いたのです。 26:66 どう考えますか。」 彼らは答えて、「彼は死刑に当たる」と言った。 26:67 そうして、彼らはイエスの顔につばきをかけ、こぶしでなぐりつけ、また、他の者たちは、イエスを平手で打って、 26:68 こう言った。「当ててみる。キリスト。あなたを打ったのはだれか。」 26:69 ペテロが外の中庭にすわっていると、女中のひとりが来て言った。「あなたも、ガリラヤ人イエスといっしょにいましたね。」 26:70 しかし、ペテロはみなの前でそれを打ち消して、「何を言っているのか、私にはわからない」と言った。 26:71 そして、ペテロが入口まで出て行くと、ほかの女中が、彼を見て、そこにいる人々に言った。「この人はナザレ人イエスといっしょでした。」 26:72 それで、ペテロは、またもそれを打ち消し、誓って、「そんな人は知らない」と言った。 26:73 しばらくすると、そのあたりに立っている人々がペテロに近寄って来て、「確かに、あなたもあの仲間だ。ことばのなまりではっきりわかる」と言った。 26:74 すると彼は、「そんな人は知らない」と言って、のろいをかけて誓い始めた。するとすぐに、鶏が鳴いた。 26:75 そこでペテロは、「鶏が鳴く前に三度、あなたは、わたしを知らないと言います」とイエスの言われたあのことばを思い出した。そうして、彼は出て行って、激しく泣いた。

導入

これまでのイースターシリーズの学びでは、イエス・キリストの死に備えることを学びました。その中に、イエスがベタニヤで油注がれた出来事があります。300万円相当の価値がある香油が、イエスのからだに注がれました。イエスはこの行為を肯定し、福音が伝えられるところでは世界中どこでも、この女性のしたことも記念として伝えられるとおっしゃいました。イエスが弟子たちと祝われた最後の過越しは、ご自身の死と過越しのいけにえの子羊を関連付けるまたとない機会でした。イエスは、ご自身のからだを血を過越しの子羊に結び付けられました。また、先週の学びでは、ゲツセマネの園でイエスが経験された悲しみや苦しみについて詳しく考えました。そして、裏切り者の口づけやすべての弟子たちがイエスを見捨てた個所を読みました。

今週の個所には、ふたつの出来事が記されています。

1. イエス・キリストに対する違法で不当な裁判 (57-68 節)
2. ペテロがイエスを知らないと言い、悔い改める。(69-75 節)

1. イエス・キリストに対する違法で不当な裁判 (57-68 節)
ユダヤ人は、公平さや公正さを誇りにしていました。
現在の西洋の司法制度は、古代イスラエルの法制度を基盤に作られたものです。

それらの基準はもともと、旧約聖書で神が民に語られたものです。

申命記 16 : 18-20

16:18 あなたの神、【主】があなたに与えようとしておられるあなたのすべての町囲みのうちに、あなたの部族ごとに、さばきつかさと、つかさたちを任命しなければならない。彼らは正しいさばきをもって民をさばかなければならない。**16:19** あなたはさばきを曲げてはならない。人のかたよって見てはならない。わいろを取ってはならない。わいろは知恵のある人を盲目にし、正しい人の言い分をゆがめるからである。**16:20** 正義を、ただ正義を追い求めなければならない。そうすれば、あなたは生き、あなたの神、【主】が与えようとしておられる地を、自分の所有とすることができる。

120人以上の部落・村落すべてでこれらの大原則が施行されました。

ここにあるさばきつかさたちは 23 人で構成されます。エルサレムについては 71 人で構成されていました。その構成員は祭司長、長老、律法学者などです。

さばきつかさとして選ばれるのは、成熟した知恵の深い人でした。

当時、偽証は重罪でした。

もし、わざと偽証するなら、偽証罪が確定した人物は、偽証した相手が受けるはずであった罰を受けます。（申命記 19 : 18-20）

この罰は、不正を未然に防ぐ大きな抑止力となっていました。

死刑を宣告された被告に対する証人は、まず自分たちが死刑執行者になりました。このようにして、彼らは言葉だけでなく行動でも自分たちの証言に責任を持つこととなります。（申命記 17 : 7）

こういうわけで、イエスは、姦淫を現行犯で捕えた人たちに「あなたがたのうちで罪のない者が、最初に彼女に石を投げなさい。」とおっしゃいました。（ヨハネ 8 : 7）

ユダヤのラビによる律法では、死刑宣告から 3 日間経たなければ死刑執行できないとされていました。そして、法廷がこの 3 日間断食をすることも決められていました。

それは、被告のために新たな証拠や証人が出てくるための猶予でもありました。

アメリカのハーバード法科大学院の著名な法学教授であったサイモン・グリーンリーフ教授は、以下のような研究結果を発表しています。

これは、当時の正当な裁判の進め方について、貴重な識見を与えてくれます。

1. 裁判当日、公判にて被告への告訴内容に関するすべての証拠が読み上げられなければならない。
2. すべての証人は、第三者から聞いた話ではなく、当事者として直接目撃した、または経験したことのみを話さなければならない。
3. すべての証人は、証言する出来事について、それが起こった日時と場所を正確に述べなければならない。
4. 議会自体が告訴人になることはできない。議会は、外部からもたらされた告訴を検証するのみである。

イエスに対する裁きと死に関して言えば、正しく進められたのはここに挙げられた項目の中でたったひとつだけでした。

マタイは、イエスに対する違法で不当な裁きについて 5 つの点に注目します。

1. 議会の違法な召集 (57-58 節)

この状況の全容を知るには、ヨハネの福音書を読む必要があります。

ヨハネ 18 : 12-14

18:12 そこで、一隊の兵士と千人隊長、それにユダヤ人から送られた役人たちは、イエスを捕らえて縛り、**18:13** まずアンナスのところに連れて行った。彼がその年の大祭司

カヤパのしゅうとだったからである。18:14 カヤパは、ひとりの人が民に代わって死ぬことが得策である、とユダヤ人に助言した人である。

ヨハネ 18 : 19-24

18:19 そこで、大祭司はイエスに、弟子たちのこと、また、教えのことについて尋問した。18:20 イエスは彼に答えられた。「わたしは世に向かって公然と話しました。わたしはユダヤ人がみな集まって来る会堂や宮で、いつも教えたのです。隠れて話したことは何ともありません。18:21 なぜ、あなたはわたしに尋ねるのですか。わたしが人々に何を話したかは、わたしから聞いた人たちに尋ねなさい。彼らならわたしが話した事गरらを知っています。」18:22 イエスがこう言われたとき、そばに立っていた役人のひとりが、「大祭司にそのような答え方をするのか」と言って、平手でイエスを打った。18:23 イエスは彼に答えられた。「もしわたしの言ったことが悪いなら、その悪い証拠を示しなさい。しかし、もし正しいなら、なぜ、わたしを打つのか。」18:24 アンナスはイエスを、縛ったままで大祭司カヤパのところに送った。

アンナスは相当な権力者でした。彼は大祭司でしたが、政治的権力が大きすぎたことで、ローマ帝国によりその地位を追われました。それでも、神殿の両替商やいけにえの動物を売る商人たちを牛耳り、高いみかじめ料を取っていました。

日本で言うヤクザのような存在です。

アンナスは、イエスの裁判で重大な決まりをふたつ破りました。まず、彼が正式にイエスを告訴したことです。次に、イエスが自らを有罪と言うように説得しようとしています。

このすべては、夜のうちに行われました。

アンナスは、イエスに自らの罪を証言させることができないとわかると、違法に集まっていた議会と大祭司カヤパのところへイエスを連行しました。

カヤパのところには、律法学者や長老たちがユダヤの最高法院として違法に集まっていました。

この時点では、イエスに対する告訴はまだ何もなされていません。

ユダヤの律法ではこれも違法です。

そして、もうひとつユダヤの律法が破られています。最高法院は、公に開かれた神殿でのみ死刑宣告に関わる裁判を行えることになっていました。

カヤパの家に個人的に集まっていたのは、明らかにユダヤの律法に反します。

2. イエスを有罪にしようとする違法で不正な陰謀 (59-61 節)

59 節から、議会が違法なことをしていたのは明らかです。議会は、法廷における裁判官や審議者としての権限のみ与えられています。彼らが告訴を扇動することはできません。彼らのもとに寄せられた告訴内容を聞くだけです。

ここでは、議会が検察と警察の両方になろうとしています。

議会の唯一の目的は、イエスを殺すことでした。そして、その目的を果たすためには、いくらでも決まりを破るつもりでした。

議会はまず、イエスに対して偽証をしてくれる人を探しました。けれども見つかりませんでした。

それは、偽証すると申し出た人がいなかったということではありません。

あまりにも信ぴょう性に欠ける話だったということです。彼らは、説得力のある話を求めていました。

けれども最終的に、説得力のある話をするふたりの偽証者が出てきました。

マタイは、そのうちのひとつだけを紹介しています。

ここで、マルコ 14 : 55-59 を読みましょう。

14:55 さて、祭司長たちと全議会は、イエスを死刑にするために、イエスを訴える証拠をつかもうと努めたが、何も見つからなかった。14:56 イエスに対する偽証をした者は

多かったが、一致しなかったのである。14:57すると、数人が立ち上がって、イエスに対する偽証をして、次のように言った。14:58「私たちは、この人が『わたしは手で造られたこの神殿をこわして、三日のうちに、手で造られない別の神殿を造ってみせる』と言うのを聞きました。」14:59しかし、この点でも証言は一致しなかった。

マルコは、ふたりの証言も一致しなかったと明かしています。
また、彼らはイエスがこれらのことを言った日時や場所を言いませんでした。
ユダヤの律法は、このような証言は認められないとしています。
イエスが過ちを犯したことの法的に有効な証言はひとつも得られませんでした。
これは、新約聖書において、イエスが人道的にも霊的にも完全であったことを示す最大のポイントです。
イエスに過ちがひとつでもあったなら、彼らはおそらくそれを見つけていたでしょう。
けれども、見つかりませんでした。
イエスは100%完全なお方です。イエスは人の姿をした神だったからです。
イエスは完全に人であり、完全に神でした。

3. 大祭司がイエスに自らを有罪と認めさせようと違法な試みをする。(62-64節)

議会はイエスのことで紛糾しました。何としても夜明けまでに裁判を終わらせようとしていました。自分たちの違法な行為が人の目につかないためです。
大祭司は、イエスが自らを有罪と認めるように誘導しました。
イエスは、偽証者たちが偽りの証言をする前で黙っておられました。
私たちが非難される時、沈黙は大きな力を発揮します。言われのない非難を受ける時は、沈黙が自然と弁護の手段になります。
しかし、イエスの場合、沈黙の力は絶大でした。
多くの場合、沈黙の時に、聖霊が大きく働いてくださいます。
イエスの沈黙は、無罪の沈黙でした。
イエスはまったくの無罪でした。
イエスの沈黙は、尊厳の沈黙でもありました。イエスのご自身を見世物になさるつもりはありません。大祭司と議論をなさるつもりはなかったのです。
また、イエスの沈黙は、天の御父への信頼の沈黙でした。
そして、イエスの沈黙はブーメラン効果を発揮しました。偽証者や議会の違法行為が、かえって彼ら自身を責めるものとなりました。
イエスがついに、最高法院が待ちに待った答えを発せられました。「あなたの言うとおりです。…」
イエスは、ご自身が神であることを認めると同時に、いつの日か裁き主として戻って来られると宣言なさいました。
このとき、人がイエスを裁いていましたが、いつの日か、イエスが彼らの裁き主となられるのです。
今ここで裁かれている者、つまりイエスご自身が、いつの日か、裁き主になり、最高法院が裁かれる対象になる、とイエスはおっしゃったわけです。

適用

私たちの生きる現代社会は、聖書の神も聖書が教える道德観や霊的真理も軽んじます。歴史上、現代ほど多くのクリスチャンが信仰のために殺された時代はありません。私たちの生きるポスト真実の世の中では、自分たちの腐敗した生き方や都合に合わせて好き勝手なルールを作れてしまいます。
けれども、いつの日か、普遍の真理、普遍の義、そして絶対的な裁きがやってきます。例外なくすべての人がキリストの裁きの座の前に立つと聖書は語ります。

コリント第二 5 : 10

5:10 なぜなら、私たちはみな、キリストのさばきの座に現れて、善であれ悪であれ、各自その肉体にあってした行為に応じて報いを受けることになるからです。

たいていの人は、今このときのために生きています。

クリスチャンは、未来のために今を生きます。それは、私たちの罪の赦しのためにイエスの尊い血が流されたことを信じているからです。

イエスとともに今の一時苦しむほうが、死後イエスなしに永遠の苦しみを受けるよりもましだとわかっているのです。

イエスも未来のために生きられました。そして、64 節で未来にどういうことが起こるか、大祭司に宣言なさいました。

4. 違法で不正なイエスへの罪の宣告。(65-66 節)

65-66 節には、大祭司が衣を引き裂いて、イエスが神を冒瀆したと言い、この罪に対して死刑が妥当だと提案しています。

レビ記 21:10 兄弟たちのうち大祭司で、頭にそそぎの油がそそがれ、聖別されて装束を着けている者は、その髪の毛を乱したり、その装束を引き裂いたりしてはならない。

祭司や大祭司の行いに対する掟がここで破られています。

また、判決を出すための投票制についても決まりを破っています。

大祭司は、感情に任せて行動していました。

公平な証拠や信ぴょう性のある証言が出揃っていないまま、有罪と死刑が宣告されました。

適用

今日でも、多くの人々がイエスについての真理を信じません。

たいていは、自分でそれが真理かどうかを確かめようとしません。

真理に心を閉ざしてしまっているのです、どんなに根拠を示してもそれに目を向けようとしないようです。

神の恵みによる奇跡が起こっても、頑なな心にはそれがわかりません。

そのような人に対して、私たちはどうすればよいのでしょうか。

もちろん、その人たちのために祈るべきです。けれども、最終的には、その人たちが選んだ道を歩んで、その報いを受けるままにしなければなりません。その報いとは、今から永遠にイエスのいない人生を歩むことです。

5. 違法で不正な法廷の行い。(67-68 節)

67-68 節には、人々がイエスにつばをかけ、こぶしで殴り、平手打ちをし、ばかにしたとあります。

イエスは、天の栄光を離れ、罪にまみれたこの世に来てくださいました。それは、人の罪の罰を受けるためです。そんなお方に対して、このようなひどい仕打ちをしたのです。神の御怒りから人類を救うため、罪のいけにえとしてささげられるために来られた神の御子に対して、なんという扱いでしょう。

イエスを不当に裁き、つばをかけた人たちは、いつの日か、イエスによって正しく裁かれ、ふさわしい罰を受けるでしょう。

このようなことをされても、イエスは非の打ちどころなく行動なさいました。

ペテロ第一 2 : 21-23

2:21 あなたがたが召されたのは、実にそのためです。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。

2:22 キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。

2:23 ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。

2. ペテロがイエスを知らないと言ひ、悔い改める。(69-75 節)

神が人類にお与えになれる偉大な賜物は、「罪の赦し」です。

罪の赦しがなければ、救いはありません。神との和解も、霊のいのちも、死に対する勝利も、天国に入れる希望もありません。

出エジプト 34 : 6-7

34:6 【主】は彼の前を通り過ぎるとき、宣言された。「【主】、【主】は、あわれみ深く、情け深い神、怒るのにおそく、恵みとまことに富み、34:7 恵みを千代も保ち、咎とそむきと罪を赦す者、罰すべき者は必ず罰して報いる者。父の咎は子に、子の子に、三代に、四代に。」

ミカ 7:18 あなたのような神が、ほかにあるでしょうか。あなたは、咎を赦し、ご自分のものである残りの者のために、そむきの罪を見過ごされ、怒りをいつまでも持ち続けず、いつくしみを喜ばれるからです。

ヨハネ第一 7-9

1:7 しかし、もし神が光の中におられるように、私たちも光の中を歩んでいるなら、私たちは互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます。1:8 もし、罪はないと言うなら、私たちは自分を欺いており、真理は私たちのうちにありません。1:9 もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。

このようなみことばはとても尊いみことばです。

私たちが赦そうと、私たちが罪を悔い改めるのを待っておられる神の姿を描いています。

ペテロがイエスを知らないと言ったことは大きな罪です。これはまったくの嘘でした。

しかし、ペテロの悔い改めと神の恵み深い赦しに照らしてこの出来事を考えるなら、この話は、すべてのクリスチャンにとって大きな励みとなります。

では、もう一度この箇所を読んでみましょう。

69 節をご覧ください。

26:69 ペテロが外の中庭にすわっていると、女中のひとりが来て言った。「あなたも、ガリラヤ人イエスといっしょにいましたね。」

午前 1 時ごろ、ペテロは外の中庭に座っていました。マルコは、ペテロが他の人たちに交じって火にあたって暖まっていたと語ります。(マルコ 14 : 54)

すると、女中のひとりがペテロに話しかけ、ガリラヤのイエスといっしょにいたと言いはじめました。ペテロはイエスといっしょにいたことを否定しました。そこにいた人たち全員の前で否定しました。

不安になったペテロは、出入口のほうに行きました。

すると、また他の女中が出ていくペテロを見て、他の人たちが聞こえるように、「この人はナザレ人イエスといっしょでした。」と言います。(71 節)

今回は、ペテロは「そんな人は知らない」と誓って言いました。

ペテロはその中庭に残ったようです。そこにいた人々が集まってきて、ペテロに 3 度目に詰め寄りました。このとき、人々はペテロの詛りに気づきました。ペテロはガリラヤの詛りがあったからです。

このとき、ペテロは見つかってしまって怒っていました。

のろいをかけて誓い始め、3 度目に「そんな人は知らない」と言いました。

そのすぐ後に、鶏が鳴きました。鶏は朝早く大きな声で鳴きます。
ペテロはこれを聞いて、「鶏が鳴く前に三度、あなたは、わたしを知らないと言います」と言われたイエスのことばを思い出しました。
ペテロは中庭から出ていき、激しく泣きました。
ペテロは、イエスといっしょに3年間も仕えたのに、イエスといっしょにいたことを否定してしまいました。
ペテロにとっては、悔い改めて立ち直り、五旬節に聖霊に満たされたので、この話はハッピーエンドと言えます。
けれども、この出来事から私たちが学べる教えがいくつかあります。

適用

1. 他のクリスチャンとしっかりつながろう。

私たちクリスチャンは、どれほど信仰が強くても、ひとりしていると敵であるサタンの攻撃に対して弱い者です。

ペテロは他の弟子たちといっしょにいるときはとても強そうでしたが、ひとりになったとき、くじけてしまいました。

サタンはエデンの園で、アダムと一緒にいないひとりだったエバを攻撃しました。

すべてのクリスチャンは、教会家族にしっかり属する一員でなければなりません。

クリスチャンは皆、教会家族の支えが必要です。また、クリスチャンとしての証を立てなければなりません。

私たちにはお互いが必要です。

新約聖書は、私たちが互いにすべきことを教えてくれます。

互いに仕え合う。(ガラテヤ 5 : 13)

互いに受け入れ合う。(ローマ 15 : 7)

互いに赦し合う。(コロサイ 3 : 13)

互いの重荷を負い合う。(ガラテヤ 6 : 2)

互いに心から愛し合う。(ローマ 12 : 10)

互いに従う。(エペソ 5 : 21)

互いに励まし合う。(テサロニケ第一 5 : 11)

ここに挙げたのは、互いにすべきと聖書が勧めることの一例です。

これらのことを実行するなら、サタンの餌食になって、主イエスを否定したり、イエスの顔に泥を塗るようなことをしたりする危険性は低くなるでしょう。

2. 聖霊の助けを得て初めて、役立つクリスチャンの証人となれる。

ペテロはまだ、五旬節の日に神の聖霊に満たされる経験をしていませんでした。ですから、必要な時に頼れる聖なる力がありませんでした。

新生したクリスチャンは皆、神の聖霊を受けています。大切なのは、この神の聖霊に頼り、イエスのために役立つ証人となれるよう助けていただくことです。

聖書は、証することは神の民全員の務めだと教えます。

(ペテロ第一 2 : 9,3 : 15)

証することは、クリスチャン生活の中で主だった活動のひとつです。(ローマ 10 : 9-10)

新約聖書は、イエスの証をする方法はいろいろあると教えます。どの方法を取るにしろ、聖霊の助けが必要です。

そのいくつかをここに挙げてみましょう。

1. どのようにしてクリスチャンになったか自分自身の経験を分かち合う。(ヨハネ 4 : 29)
2. 聖書の内容を説明する。(使徒 8 : 30-35)
3. 手紙やEメール、フェイスブックで連絡する。(ヨハネ 20 : 31)
4. 「聖い生き方」をとおして。(マタイ 5 : 16)
5. イエスにささげた犠牲的な行為をとおして。(マタイ 26 : 6-7)

私たちは、愛をもって、恐れず、わかりやすく、礼節をもって証することを心がけなければなりません。

日本でイエスの証人となることには、犠牲がともないます。とくに、職場ではそうでしょう。だからこそ、私たちはお互いの存在と聖霊の働きが必要なのです。

ここ日本で、私たち皆がイエスのために良き証人となれるよう、神が助けてくださいますように。